

楽しみながら 秋を感じて！

深谷保育園の園児が彩り鮮やかな菊を観賞

11月1日、深谷小学校近くで40種類以上の菊を栽培されている佐藤育男さんが、深谷保育園の3～5歳児約30人を招き、菊の観賞会を行いました。園児たちは、佐藤さんの説明を受けながら色とりどりの菊を観賞。「きれい」と声を上げながら眺めていました。佐藤さんは定年退職後に本格的に菊の栽培をスタートし、3年前から同園の園児たちを招き、菊の観賞や園児たちが楽しめるゲームを企画され園児たちと交流。佐藤さんが「来年はパンジーを見に来てください」と話すと、園児たちは「また見せてください」と笑顔で話していました。



1_笑顔でふれあう佐藤さん夫妻 2_色とりどりの菊を観賞する園児たち

ふれあいながら 収穫の喜びを体験

第一幼稚園でサツマイモ掘り

10月30日、第一幼稚園の園児たちが、本郷第三地区と亘理町地区の方12人の手助けを受けながら、園庭でサツマイモ掘りを行いました。この日は、5歳児約40人がサツマイモ掘りに挑戦。園児たちは、「大きいサツマイモだ」「重かったけどみんなでいっぱい獲ったよ」と歓声を上げ、掘ったばかりの大きなサツマイモを見せてくれました。同園では、人とかかわる体験の充実を図ろうと本年度から地域の方との交流をスタート。1月には昔遊び会を行い、さらに地域の方との交流を深めていく予定です。



▲大きなサツマイモを手に喜ぶ園児たち

支え合おう！「こころ」と「からだ」

第5回白石市健康福祉まつり

11月2日、「第5回白石市健康福祉まつり」をホワイトキューブで開催しました。「健康増進」と「障がいの有無を超えた共存社会」の実現を目指して開催しているこのイベント。福祉団体によるステージ発表や車いす・目かくし体験、健康診断など多彩なコーナーが設けられ、約1,600人の来場者が自身の健康と向き合い、人と人が支え合って生きていくことの大切さなどをあらためて感じていました。また、「母と子の良い歯コンクール」「8020良い歯コンクール」も行われ、虫歯のない親子や80歳以上で20本以上の歯を持つ方々が表彰されました。



1_白石市手をつなぐ育成会本人部会「ちゃれんじど」のステージ発表



2_「母と子の良い歯コンクール」で表彰された親子 3_車いすなどの体験コーナーで障がいに対する理解を深める来場者 4_歌と手話を織り交ぜた「かめっこくらぶ」のステージ発表

身近で親しみの持てる施設へ

図書館・児童館・アテネ 3施設合同まつり

11月3日、「図書館・児童館・アテネ3施設合同まつり」を開催し、約300人が会場を訪れました。図書館では読み聞かせや壊れた本を修理する本の病院、手作りしおり制作、映画鑑賞会が行われ、第一児童館ではシャボン玉やけん玉、お手玉など、大人も子どもも楽しめる遊び、アテネでは株式会社旭プロダクション宮城白石スタジオのスタッフから指導を受け、アニメづくりが行われました。訪れた人たちは3施設の10カ所のチェックポイントでスタンプを押してもらい、綿あめと交換するなど、笑顔でまつりを楽しんでいました。



1_大きなシャボン玉を作ろうとたくさんの子も子どもたちが挑戦。大人も子どもも笑顔！ 2_真剣な表情でアニメづくりを行う参加者たち 3_絵本・紙芝居は子どもたちに大人気！

日本伝統の民俗芸能を楽しむ

大鷹沢保育園で文化芸術体験

10月23日、文化庁の「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」の一環として、「民族歌舞団ほうねん座」(仙台市太白区秋保)による「日本の芸能を楽しもう」が大鷹沢保育園で開かれました。この日は、園児47人は座員6人が演じる和太鼓演奏や祭りばやし、虎舞、獅子舞など日本伝統の民俗芸能を鑑賞。年長児26人は和太鼓演奏にも挑戦し、大きな声で「ラッセラー」と声を出しながら、大きな太鼓を元気いっぱいたたいていました。参加者園児は、「太鼓の音が心臓に響いたよ！」「もっとたたきたかった」と笑顔で話してくれました。



▲楽しそうに太鼓をたたく園児たち

ごみの減量化・資源化を推進

ごみダイエット・絵画、標語コンクール

11月13日、仙南地域広域行政事務組合主催の平成25年度「ごみダイエット・絵画、標語コンクール」で最優秀賞を受賞した森進之助くん(白二小5年・絵画部門)と島貫くん(同小4年・標語部門)が市役所を訪れ、同組合の理事長である風間市長から賞状が贈られました。森くんは、「10日間かけて作りました。下書きが大変だったけど思った通りに描けました」、島貫くんは、「リサイクルする人が1人でも増えればうれしいです」と話してくれました。同コンクールの入賞作品は、12月10日～16日までの7日間、市役所に展示されます。



▲表彰を受け、風間市長と記念撮影する島貫くん(左)と森くん(右)